

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
 田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
 保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

平成23年度

講座参加者の声

今年度も公民館主催事業から多くの出会いが生まれ、公民館が新たな発見や学びを深める場となりました。今回は数ある事業の中から、各館の6事業について、参加者に報告していただきます。

田無公民館

国際理解のための講座Ⅱ
〜韓国文化と韓国語基礎講座〜

淵田 律子

「アンニョンハセヨ」のあいさつで始まる田無公民館の講座は、応募者120余人のうち抽選に当たった60人の参加者で2週間に1度木曜日16時から1時間半行われています。

参加者が声をそろえて読む「アヤオヨウユウイ」は、まるで演劇部の発声練習のようです。それは日本語の母音アイウエオですが、ヨとオとウが2回ずつあり、それぞれ微妙に違う発音です。

講師は若い韓国女性で、完璧ではない日本語ながら、一生懸命笑顔で教えてくださる姿にすこ好感が持てます。参加者の平均年齢は不詳ですが、皆さん真面目で遅刻もなく、休む人はほとんどいません。休憩時間や終了後には積極的に先生に質問に行くなど熱心さが感じられます。先生も喜んで対応してくださっています。

座は終わりますが、形が変わってサークル化され、継続する計画もあるようで、参加者みんなも非常に楽しみにしています。



明るく朗らかな鄭講師

保谷駅前公民館

お父さんと肉まんを作ろう

小学三年 岡本 直己

公民館の講座に参加するのは2回目でした。ふだんはお父さんもほくも、全然料理をしないので、本当にできるかどうか不安でした。

実際に作ってみると、うどん粉をこねて生地を作るのは、体重をかけてやらないといけないので大変でした。

生地に具を包む時に、なかみが見えださないように気を付けました。でも、その他はだいたいうまく作れました。

肉まんの作り方が分かったので、また家でも作ってみたいです。

小学四年 山口 瑛士

「あつ、おもしろそうだな」という興味ほんいで、母からのおさそいに「いいね」と、答えられども、思ったよりもむずかかったです。

特に、中身を包むところが、むずかしかったです。でも、きじや中身を練ったり、きじをのばすところなど、楽しい工程がありました。良かったです。

肉まんをむすのに時間がかかったけれども、ぎゅくにいつもよりおいしく感じた気がしました。また、このような教室があればやってみみたいです。



柳沢公民館

保育付き

外国人のための日本語ボランティアスタツツ養成講座

鈴木 律子

子どもがいるからと、半ばあきらめつつも公民館だよりを眺めていたら、ありました！「外国人のための日本語ボランティア」しかも保育付き。

もともと日本人以外の人がおしゃべりしたい、日本語も教えてみたいという気持ちがあったので、早速この講座に申し込みました。

保育室の利用は初めてでしたが、息子はすぐに慣れて、毎週仲間に会えることを楽しみにしている様子でした。そのため、私は安心して参加することができました。

講師の方々のお話は毎回興味深く、久々に鉛筆とノートを持

って学ぶ時間は、私にとって自分が生き生きとできる貴重な時間となりました。また、日本語を教えたいという同じ志を持った方々に出会い、お話しする機会が持てたことも大きな収穫の一つであり、これから先、私もこうありたいという励みにもなりました。この講座に参加して、本当に良かったと思います。

ひばりが丘公民館

保育付き

自己表現講座〜色であそぶ・色であらわす・きもちよく〜

田谷 奈美子

「自己表現講座」と聞いて、初めはどんな事をするのか全く予想もできませんでしたが、最終私たちをわくわくさせてくれる講師のおかげで、結果的に「自分」について多くの気づきを得ることができました。

講座の内容は「アートっぽく」体験をするのですが、決して上手な作品を作ることが目的ではなく、とにかく自由な発想（へたつま、と呼んでいました）で、純粋に作品作りを楽しみました。また、その作品から感じ取れることを声に出して表現することには、今までにない新鮮さを感じ、とても刺激的な経験を持つことができました。

この講座をきっかけに「母」としてだけでなく、一人の人間として楽しんだり表現したりすることを大切にしたいの思いが強くなり、その後参加したサークルでは、「自己啓発」を自分のテーマに楽しむようになりました。このような魅力ある講座を今後も提案して欲しいと思います。

谷戸公民館

農業を知る講座

米田 暢子

8月の土曜日朝9時。今日は農作業の日。私は長袖、ビニール手袋、帽子に長靴といういでたちで、谷戸公民館近くの畑にいた。まだ午前中だというのに日差しが照りつけ、指導してくださる地元農家の保谷先生の顔から汗がポタポタとたれている。私の手袋にも汗がたまる。でもこれが心地良い。アスファルトの道の上を歩いて流す汗とは全然違つ、すがすがしい汗なのだ。

はじめた頃は鎌の持ち方もわからず、へっぴり腰だった。先生を見てみると簡単なそうなのに、実際にやるとなかなか難しい。でも、面白い。毎週みるみる育つていく野菜たちもかわい。

講義では都市農業のあり方について学び、都会にこそ農園が必要だと思うようになった。雨が降ると野菜たちが喜んでいなるなど嬉しく感じるようになった。すごい変化だ。自分で作



農業を知る講座の様子

た野菜が食べられるのは素敵だし、西東京市に野菜スタンドがいくつかあるのも、とても素晴らしいことだと改めて感じる。畑から帰ってシャワーを浴びてサッパリした後は、早速収穫したばかりの野菜たちをいただく。なんだかとてもぜいたくな気分だ。

芝久保公民館

地域の人たちが企画した「地域を考える講座」

有馬 将由

市制10周年記念として芝久保公民館が企画した事業が住民参加による準備会からスタートしました。

9月11日を第1回として、全4回の「地域を考える講座」を組み、毎回、座学とグループワークのあと、お茶を飲みながらくつろいだ雰囲気での交流会というプログラムで行いました。全日程を通じての総合コーディネートに田無ソーシャルメディア研究会の原田久光氏を招き、元民生委員・主婦・元PTA会員・会社員など多様な人たちの参加がありました。

参加者のすべての人たちの間に、このまちで安心して暮らすための課題に取り組みつづけるための熱気が醸成された時間でした。

3・11の日本人の誰もが忘れることのできない出来事は、私たちが新たに地域を見つめ直すきっかけとなりました。

このような講座が今回だけで終わることなく、むしろこれを出発点として多くの人たちがまちづくりを考える場となることを願っています。